

# 年頭所感

## 新年挨拶



大阪府知事 太田 房江

新年あけましておめでとうございます。

2008年の幕が明けました。新たな年を迎え、今年が大阪にとって大いなる飛躍の年となりますことを期待しております。

昨年、これからの大阪の発展に欠かせない二つの大きな出来事がありました。

ひとつは関西国際空港の第二滑走路のオープンです。昨年8月、日本初の世界標準の国際空港が誕生しました。大阪・関西のみならず、我が国の活力を高め、「アジアのゲートウェイ」「国際物流拠点」として発展していくものと確信しています。

二つ目は「技術と規模で世界第一級」の工場の大阪湾岸への立地です。今まで一貫して企業立地の促進に努めてきた集大成として、昨春、「企業立地促進条例」を制定し、大阪で頑張る企業を精一杯応援する姿勢を示すとともに、先端産業誘致のための補助制度の拡充等も行いました。こうした中、粘り強いトップセールスが実を結び、我が国最大の民間投資が実現しました。今後、大規模な経済波及効果が期待されています。

これらの効果もあいまって、大阪経済は府民の皆様のためまぬご努力により着実に回復の歩みを強めています。

大阪が、これらの上昇気流に乗ってさらに飛躍し、一人でも多くの府民の皆様が景気回復を実感できるようにするためにも、大阪の強みにさらに磨きをかけてまいります。

大阪経済の発展を持続可能なものとするため、創薬や再生医療、新エネルギーや新素材などの次世代産業の発展が不可欠です。大阪・関西は、こうした分野で大きなポテンシャルを有しており、元来の強みである中小企業のものづくり基盤技術と融合させ、人々の暮らしを格段に向上させる高付加価値製品を創出する新たな成長の力を生み出すことが必要です。長年培ってきた技術やノウハウの継承など、事業継承の円滑化も、中小企業が抱える大きな課題であることから、経営者の高齢化や後継者不足で閉鎖や廃業に追い込まれる企業が後を絶たない現状をしっかりと把握し、サポートしてまいります。

府民の皆様の安全・安心の確保は、豊かな社会を実現する重要な要素です。雇用や教育・医療や福祉、そして強い都市づくりなどの施策を充実させ、いざというときの安全・安心のセーフティネットをきめ細かく張りめぐらせていかなければなりません。

大阪の将来を担う子どもたちをしっかりと支え、育てていくことも大切です。特に、学力問題について、学校を中心に、家庭や地域との連携を図りながら、子どもたちに確かな学力を身につけてもらえるよう、手立てを講じてまいりたいと考えています。

昨年につき、今年も世界の耳目がアジアに集まる年です。まずは、6月、大阪・関西を舞台に、G8サミットの財務・外務・環境大臣会合が開催され、各国首脳による熱い議論が交わされます。そして、8月には、北京オリンピックが開幕し、世界のトップアスリートによる熱い戦いの火蓋が切られます。こうした大イベントを、世界の中の大阪の存在感や魅力を大いにアピールできる好機ととらえていくことが大切です。

そして不断の行財政改革です。平成22年度に赤字構造からの脱却を目指し、次世代に負担を送らない持続可能な行財政構造へ転換するため、施策の「選択と集中」の徹底を図り、行財政改革プログラム（案）の改革目標に向けた取組に力を注いできたところです。あわせて、地域のことは地域で決め、責任を持って行う真の「地方分権改革」の実現に向けた努力を惜しんではなりません。

私の任期も残すところあとわずかとなりましたが、これまで8年間のご支援に対し、改めて感謝申し上げますとともに、大阪の発展に少しでもお役に立てるよう、持てる力の全てを出して、府政運営に努めてまいります。

結びに、大阪府政の推進に、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様一人ひとりにとって実り多いすばらしい年となりますよう心からお祈りいたします。